

Title	インテリアに於けるマテリアルコーディネート方法論 の可能性について
Author(s)	小宮, 容一
Citation	デザイン理論. 1992, 31, p. 70-71
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52911
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

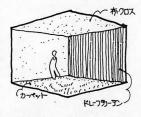
https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

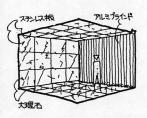
大会発表要旨

インテリアに於けるマテリアルコーディネート方法論の可 能性について

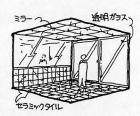
小宮容一



●柔らかく, 温かいインテリア



●硬く,冷たいインテリア



●光沢のある軽快なインテリア



● 光沢のない 落ちついた インテリア

図1 マテリアルコーディネート とインテリアスタイル (『図解インテリア設計の実際』

インテリア設計に於けるカラーコーディ しかし、マテリアルコーディネート (仕上 材構成と調和)の方法論となると,「まだ まだ、これから!」というのが現実である。

(建築仕上材個々の特性と評価に関する研 究は、建築学会論文他に多々見受けられ る。) マテリアルコーディネートの方法論 が提示できるなら、インテリア設計上、教 育上有意義なのもとなるであろう。例えば 図1はマテリアルコーディネートとインテ リアスタイルをイラストしたものである。 このようにパターン化すると特に初学者・ 初心者に理解されやすいものとなる。そこ で、マテリアルコーディネートの方法論を まとめるための現状の分析とそれに続く. キーとなる項目を抽出してみることとする。よる方が良いのではと考える。カラーコー

◆ 現状のインテリア分析

現存のインテリアを仕上げ材料面から観 察してみると、

- ①石材・ガラス・スチール多用の
- ②木質系材料多用の
- ③カーペット・織物クロス使用の
- ④コンクリート打放し多用の
- ⑤土壁, たたみ, 障子, 杉板の
- ⑥ビニールシート・ビニールクロスの
- (7)その他のインテリア

などのグループが見受けられる。これを仕 上材料の特性から見て, ①は滑・硬の構成, ②は中程度の滑・硬の構成, ③は粗・軟の 小宮容-著 オーム社 1989より) 構成, ④は粗・硬の構成, ⑤は粗・軟の構

成、⑥は滑・軟の構成、などと分析するこ ネート方法論はそれなりに確立されている。とが可能であろう。(図2参照)次に空間 の評価面から①をクールで清楚なインテリ ア,②を自然感のインテリア,③をやすら ぎのインテリア、④を緊張のインテリア、 ⑤を緩和のインテリア、⑥安全・健康のイ ンテリアなどとすることが可能であろう。 このように、材料特性の構成の傾向と、空 間評価の内容の間に何か相関的な関係が見 いだせる可能性があるのではないだろうか。

◆ 仕上材の特性の評価

マテリアルコーディネートの方法論をま とめる為に仕上材の特性評価は, 仕上材料 に対し人間が感じとる質感ではなく, むし ろ、物理的科学的な計測による数値評価に ディネートにおける, 明度や彩度が数量的 であるからこそシステマチックな方法論と なるようである。したがって, ブルネル硬 さ,モース硬さ,熱伝導率,摩擦係数,比 重, 圧縮強さなど, 数値でしかも, インテ リア空間に重要な影響をもたらす要素を取 り上げなくてはならない。図2ではそのよ うな要素の中で、2つの要素、硬軟・粗滑 を取り上げてみた。硬軟の計測には多くの 諸先輩の研究があるので参考としてよいと 考えている。粗滑については、摩擦係数の 他. 単位面積当りの凹凸数とか. 断面距離 当りの高低面積とかを計測してはと考えて いる。また2要素2軸だけでなく第3の要 素を加えた3次元マトリックスも検討して みたい。例えば比重を参考として「軽重」, 圧縮強さやせん断強さを参考とした「強弱| などである。

◆ インテリア評価の形容語句

仕上げ材で構成されたインテリアが醸し 出す, 意味内容や雰囲気をなんらかの形容 語句によって表現し、意志伝達する。マテ リアルコーディネートでは、一方で構成さ れたインテリアの評価、一方で設計コンセ プトから仕上材を選び構成する時に形容語 句の必要性が考えられる。例えば、市販の グラビア・インテリアマガジンから形容語 句を拾ってみると――気が休まる、落ちつ ける, 快適に暮らす, 和風, 洋風, モダン, クラッシク、人を温かく迎える、生活の香 りが漂う、温もり、さわやか、個性的、 シック――などがあり、様式表現、行動表 現、感覚表現など多彩である。またカラー 研究所の IMAGE SCALE から拾う――プ リティー、甘い、かわいい、うれしい、楽 健康な, 家庭的な, 自然な, エレガントな ---などがあり、グルーピングも試みられ ている。しかしマテリアルコーディネート にはそのままでは適しない。マテリアル コーディネート用の独自の形容語句とグ ルーピングの考案が必要と思われる。

◆ 方法論の試案

色の属性に色相, 明度, 彩度があり, トーン表記がある。仕上材料に色相、色相 環が成立するかというと難しい。(図4参 照) 明度, 彩度はないけれどもそれに変わ る尺度として硬軟度, 粗滑度, 軽重度など

の仕上材の特性をよりどころにできると考 える。前述図2のように2次元マトリック スはわかりやすい、しかし、それだけでイ ンテリアの評価とうまくマッチングできる だろうか。図5のように3次元マトリック スが可能か。可能として例えば粗・硬・重 のレンガと粗・軟・軽の紙で構成されたイ ンテリアはどう評価するのか。評価側のマ 図2 試案:マテリアル トリックスはいかなるものか。直方体イン テリアの6面が全て異なる仕上材で構成さ れているとすれば、方法論的にどう図示す ることができるか。トーン配色の様に類似 トーン配色, 対照トーンの配色はどのよう にマテリアルコーディネートにおいて、類 似特性構成、対照特性構成など論ずること ができるだろうか。難問は多い。

タタミ、土壁

コーディネートの位置



試案:インテリア評価 の付置

◆ まとめ

難問は確かに多い。しかし、可能性はあ コディネートに関し、日本カラーデザイン ると考えている。インテリアには仕上材料 の単純な構成もあれば、複雑な構成もある。 方法論に於いても、単純から複雑までス しい、やわらかい、ロマンチック、気軽な、テップを作ってもよいだろう。今回の発表 はマテリアルコーディネートの方法論が成 立するかの見通しを探ってきたが、方法論 可能有りとして, 今後順次詳しく研究して 行きたい。

参考文献

武田雄二著『建築仕上げ材料の感覚的特性評価に関する 研究』1989

穐山貞登著『質感の行動科学』彰国社 1988 日本インテリア学会第3回大会研究発表梗概集 1991

> こみや・よういち 芦屋大学 1991. 11 第33回大会



図4 試案:材料環

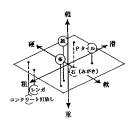


図5 試案:3次元マトリックスに よる仕上材の位置